

1 題材名

『変わりゆく海辺の風景』 <3年生 歴史分野 「日本の高度経済成長」>
～高度経済成長期の千葉市～

2 授業のねらい

- ①登戸・登渡神社や稲毛・浅間神社の鳥居から先は海でした。そこから数キロ先まで広がる埋め立て地はなぜ造られ、どのように利用されてきたのでしょうか？ 時代とともに大きく変容する千葉市の海辺を、日本の高度経済成長期の姿としてとらえます。
- ②この学習では首都圏の工業化に焦点を当てて、進出する企業側と誘致する市（県）側双方の思惑を考察しながら、重化学工業の発展及び経済成長の促進による功罪にも注目します。

3 指導計画上の位置付け

◇1時間扱い

◇第7章：現代の日本と私たち 2節：冷戦と日本の発展 高度経済成長の例として扱える内容です。

4 予想される授業の流れと指導資料

- ①千葉市の海岸線の昔と現在を、写真や読み物資料等で確かめます。
遠浅&干潟 ～ 海苔の養殖、潮干狩り、海水浴、保養地・・・
*埋め立て地 ～ 工場群、団地、各種施設、公園・・・
- ②川崎製鉄（現 JFE）の誘致から操業までを、資料を読みながら考えていきます。
*千葉市が誘致したかった理由 ～ 市の復興、産業育成（特に工業）、地域振興など
*川崎製鉄が千葉を選んだ理由 ～ 広い土地、港湾、大量の水、労働力、東京に近い、など
- ③京葉工業地域成立後の成果と課題を資料から読み取ります。
*主産業の転換（第1次産業→第2次産業）
*消費都市から生産都市へ、経済の活性化
*農村の過疎化、都市問題、公害問題
- ④埋め立て地の工業化による生活の変化と、得たものや失ったものなどについて個人でまとめます。その後に表示して共有します。

<活用するおもな資料>

- ◎写真・パネル（昔、造成中、造成後、東京五輪、新幹線など） ◎公害関係資料
- ◎『百の歴史を千の未来へ』（千葉市制100周年記念漫画）から
「遠浅の記憶と海辺の復活」「日本の高度経済成長を支えた鉄人」
- ◎『海と千葉』（千葉市制100周年記念 本館特別展図録）
- ◎『千葉市の海辺』（千葉市・千葉市教育委員会作成） ◎地図ソフト（今昔マップ）

5 指導上の留意点、その他

- ◇工業用地以外にも、団地、商業施設、公共施設、公園等としても使用されてきたことを補足説明します。
- ◇美浜区や中央区の埋め立て地に居住・通学する生徒とそうではない地区の生徒とでは、意見や考え方に違いが出てくる可能性があります。学校間で比較ができれば発見があるかもしれません。
- ◇小学生用プログラムでは「人口増加」に焦点を当てて、住宅団地の造成や学校の新設などを興味深く学習しています。合わせてご覧ください。